

第5学年 社会科学学習指導案

指導者 鈴木 淳仁

1 日時 令和4年11月11日(金) 第5校時(13:40~14:25)

2 場所 5年2組教室

3 単元名 わたしたちの生活と工業生産(全25時間)

小単元名「工業生産を支える輸送と貿易」

4 小単元目標

我が国の工業生産について、交通網の広がりや、外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで貿易や運輸の様子を捉える。また、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習課題を追究・解決しようとする態度を養う。

5 指導観

(1) 児童について

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的に取り組むことができる。1学期に学習した「低い土地のくらし」では、岐阜県海津市について学習し、低い土地を生かした産業や暮らしの工夫について考え、まとめることができた。また、国内の気候区分についても学習し、雨温図の読み方を覚え、日本国内でも地域によって気温や降水量に違いがあることに気付いた。「あたたかい土地のくらし」では、沖縄県について学習し、あたたかい気候を生かした産業や、観光業について興味を持って調べることができた。一方で、学習したことを、自分事として捉えて考えを深めたり、表現したりすることが難しい児童もいる。

(2) 教材について

本単元は、大単元「わたしたちの生活と工業生産」の小単元の1つである。この単元では、工業生産における貿易や運輸の様子について学習する。自動車工業などの既習事項から、外国との関わりや生産された工業製品が運ばれていく様子に目を向けさせ、貿易や運輸を焦点化して指導する必要がある。本単元では、地図やグラフの読み取りが重要である。資料から、日本の貿易の特色や交通網の広がりなどについての全体的な傾向を読み取り、工業生産について考える学習につなげていきたい。また、今回は今治市の副教材「海運と船と港の役割」を活用する。ここでは、今治港が「海事都市」と呼ばれている理由や、今治港で輸出入している貨物について調べ、今治港が四国や日本において重要な港であることを理解させる。

(3) 指導について

本単元の前に、「くらしを支える造船業」について学習する。今治市は造船業が盛んで、児童が船を目にすることも多いと考えられる。実際に船を使って工業製品の輸出をしていることから、船をどのようにして製造しているか、どのような船があるのかを理解する必要がある。製造の工程や船の種類が分かる写真を用意して、「造船」や「海運」に興味を持たせたい。本単元の学習では、初めに工業製品を輸送する手段について学習する。そこでは、船や飛行機、トラック、貨物列車などが挙げられる。また、「貿易」について学習し、貿易額のグラフなどから、工業地帯や工業地域にある港から輸出入が多く行われていることを理解させる。さらに、目的地や運ぶ工業製品によって手段

が異なることについても地図や写真を活用して調べていきたい。次に、日本の輸出入の特色について学習する。「輸入」については、石油などの天然資源が乏しい日本にとって輸入が欠かせないものであることを理解させる。また、国内で製造できないものや国内で製造するよりも安い海外の工業製品を多く輸入していることに気付かせたい。「輸出」については、自動車をはじめとする機械類の輸出額が多いことを学習し、海外から安く仕入れた工業製品を使って、日本国内で完成品を作り、外国に輸出する「加工貿易」の仕組みについても理解させたい。次に副教材「海運と船と港と役割」を活用して今治港について学習する。まず、今治市の地図を見て、造船所が多い地域や今治港の位置を調べ、船に関係する会社が多くあることについて触れる。また、今治市は、日本最大の「海事都市」と呼ばれていることについて学習し、今治市内に多くの船主が集まっており（外航船の船主は「今治オーナー」と呼ばれる）、北欧・香港・ギリシャと並んで「四大船主」の一つに数えられていることを理解させる。

本時の指導では、今治港に輸出入する貨物にはどのようなものがあるかを調べる。まず、今治市の工業生産の特色や既習事項を基に、輸出入貨物を予想する。実際には、輸出品は「化学製品」が多く、輸入品は「非金属鉱物」が多い。これらは、今治市や周辺の地域の工業生産を支えるために大変重要な役割を担っているということを理解させたい。以上の学習活動を通して「貿易」や「運輸」が日本の工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解させていきたい。

6 副教材の取り扱い

「海運と船と港の役割」今治の街を探検しよう

今治市は日本最大の「海事都市」と呼ばれている。児童も「造船」については、耳にすることが多く、実際に造船所や大きな船を見たことがある児童が多い。ただし、「海運」については今治市の現状を知る児童は多くはないと考えられる。本副教材は、今治港における海運業についてイラストや写真、グラフなどを用いて分かりやすく説明されている。本教材を活用して、今治港における「造船」と「海運」の両面での現状と実績を理解させ、今治港は四国や日本の工業生産を支えているということを理解させたい。

7 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 交通網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。</p>	<p>① 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、貿易や運輸の様子について考え、表現している。</p> <p>② 工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて、貿易や運輸が工業生産に果たす役割を、適切に表現している。</p>	<p>① 工業生産における貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

7 小単元の指導計画

時間	ねらい	○ 主な学習活動 ・ 内容	資料	評価方法 【評価規準】
1	船は日本の貿易や輸送を支える重要な役割をもっていること、造船所は日本各地の海沿いの地域にあり、目的に応じた多様な船を作っていることを理解する。	○ 統計資料や写真などから、船が輸送に果たす役割を理解する。 ・ 輸出入のほとんどを海上輸送が担っている。	ワークブック 「海運と船と港の役割」 p 5、6、13、14 社会科用海上輸送・造船等素材映像（日本海事広報協会）	ノートの記述 【主体的に取り組む態度①】
2	日本の貿易について話し合い、何がどのような手段で運ばれているのかに着目して学習問題をつくり、学習計画を立てる。	○ 自動車工業を振り返り、輸送との関わりを話し合う。 ・ 部品は関連工場で作られ、組み立て工場に運ばれる。 ・ 自動車はトラックや船で運ばれる。	社会科用海上輸送・造船等素材映像（日本海事広報協会）	ノートの記述や話し合いの様子【思考、判断、表現①】
3	工業製品が、さまざまな交通機関の特色を生かした運輸の働きによって工夫して運ばれていることを理解する。	○ トラックターミナルの図などから、工業生産における輸送手段を調べる。 ・ 工場で作られた工業製品は、様々な交通手段を組み合わせて運ばれる。	ワークブック 「海運と船と港の役割」 p 7、8	ノートの記述や発言内容【知識・技能①】
4	日本は、工業製品に必要な燃料や原料を各国から輸入しており、国内ではつくれないものや国内よりも安くつくれる製品を輸入していることを理解する。	○ 日本が輸入している品目と相手国を調べる。 ・ 石油や石炭など燃料や原料を輸入している。 ・ アジア地域で生産された、安くて品質の良い工業製品が輸入されている。	ワークブック 「海運と船と港の役割」 p 9、10	ノートの記述や発言内容【知識・技能①】
5	日本は、輸入した原料を基	○ 日本が輸出している品		ノートの記述や発言

	にして高い技術で生産した製品を輸出しており、輸出するだけでなく現地生産も増加していることについて理解する。	目と相手国を調べる。 ・ 自動車、鉄鋼、集積回路など高い技術に支えられた製品が輸出されている。 ・ 現地生産も多くなっている。		内容【知識・技能①】
6	今治市は海に関する会社が集まっている全国屈指の「海事都市」であることを理解する。	○ 今治港（今治地区、蔵敷・鳥生地区、富田地区）について学び、今治港にはたくさんの船や海に関する会社があることを調べる。	副教材「海運と船と港の役割」 ワークブック「海運と船と港の役割」p 1、2	ノートの記述や発言内容【知識・技能①】
「海事都市」今治のすごいところを見つけよう。				
7 本時	今治港の輸入・輸出、移入・移出の現状を知り、今治港が様々な貨物を取り扱うことで、国内の工業生産を支えていることを理解する。	○ 今治港で扱われている貨物について予想し、どのようなものがあるか調べる。 ・ 新居浜市で作られた化学製品を多く輸出している。 ・ 非金属加工物を多く輸入し、今治市で製品を作っている。	副教材「海運と船と港の役割」 輸出入貨物・移入出入貨物についての円グラフ	ノートの記述や発言内容【知識・技能①】
8	原料や資源の多くを輸入している日本の取組を調べるとともに、これまでの学習を振り返り、運輸や貿易が工業生産に果たす役割についてまとめる。	○ これまでの学習を振り返り、運輸、貿易、工業生産との関わりについて新聞にまとめる。		ノートの記述や発言内容【思考、判断、表現②】 ノートの記述や発言内容【知識・技能②】

9 本時の指導

(1) ねらい

今治港の輸入・輸出、移入・移出の現状を知り、今治港が様々な貨物を取り扱うことで、国内の工業生産を支えていることを理解する。

(2) 準備物

副教材「海運と船と港の役割」（児童用）、写真、センテンスカード

<p>3 副教材にある円グラフを使って実際に輸出入されている貨物について知る。</p>	<p>(2) 輸入品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄（大きなもの） ・ 糸 ・ 金属類 ・ せんい類 ・ 石油などの燃料 <p>○ 今治港から多く輸出している物は何でしょうか。また、それはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬 ・ 実験で使用する薬品 <p>○ 今治港に多く輸入している物は何でしょうか。また、それはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工業製品を作るための材料。 <p>○ 船やタオルが輸出されていないのは、なぜでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学薬品は新居浜市で作られており、それらを今治に移してから国外に輸出していることを理解させる。 ・ 非金属鉱物は主に石膏であり、富田地区の建材工場で石膏ボードなどの製造に使用していることを理解させる。 ・ 正しく予想できなくても、輸出品と輸入品が加工貿易の関係で考えることができているればその考えを認める。 ・ 船やタオルを製造する際の材料が国内から仕入れていることを理解させる。
<p>4 今治港の役割や機能について考え、本時のまとめをする。</p>	<p>○ 今治港は今治市内や四国内、さらに日本においてどのような役割をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料を輸入して、今治市内で製造するために大事な役割をしている。 ・ 新居浜で作られたものを世界中に運ぶ重要な役割をしています。 	<p>◆ 今治港の輸入・輸出、移入・移出の現状を知り、今治港が国内の工業生産を支えていることを理解する。 (ワークシート、発表)</p>